

平成 27 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン離島・僻地医療実習

実習生：中島 潤

実習先：長崎県五島中央病院

実習期間：平成 28 年 2 月 1 日(月)～2 月 26 日(金)

実習報告：

今回私はがんプロの離島・僻地病院実習として五島中央病院で 1 ヶ月間の実習をさせていただきました。

五島市は 2004 年 8 月 1 日に福江市、南松浦郡富江町、南松浦郡玉之浦町、南松浦郡三井楽町、南松浦郡岐宿町、南松浦郡奈留町の合併により誕生した市で長崎港から約 100km の位置にあり 11 の有人島と 52 の無人島により構成されています。五島中央病院は五島市の中核病院で、病床数は 304 床ありますが、精神病床や結核病床を含むため一般病床は 230 床となります。標榜科は内科、循環器内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、消化器内科と多数ありますが、神経内科や脳神経外科、皮膚科は常勤の医師はおらず週に数日応援の医師が来て外来を行っていただいています。

実習は外来と病棟実習を主に行いました。外来では五島中央病院にかかりつけの患者の急患対応(救急車対応も)を行う外来を週 3 回行い、新患外来を週 1 回手伝っていました。だいたい 15-25 人/日程度の診察を行いました。救急車は 0-3 台/日程度来ました。2 月ということもありインフルエンザ患者が多く受診されました。

病棟では外来で入院させた患者に加えて呼吸器や消化器の癌患者を受け持たせていただきました。癌患者では非小細胞肺癌、胆管がん、胃がん、膵臓がんといった患者を見させていただきました。癌患者以外では蜂窩織炎、インフルエンザ後器質化肺炎、脳出血、脳梗塞、糖尿病、喘息などの患者も受け持ちました。診察に加えて抗がん剤の作成や地域連携・ケアマネジャーとのカンファレンスも行いました。

化学療法に使用する抗がん剤の作成は医師が行っていました。クリーンベンチは薬剤部のみにしかないので病棟の点滴台や外来の処置室で作成しました。今後は徐々に薬剤部での作成に移行していくとのことでした。

離島・僻地医療実習を行い、癌患者に対する化学療法は標準的な治療を行えていると感じました。一方で抗がん剤作成している側で他の処置が行われたり、化学療法中の患者の側で急患が休んでいたりと環境の改善が必要と感じました。また薬剤師不足で抗がん剤の作成が行えなかったり、看護師に派遣の方が多かったりと離島医療におけるマンパワーの不足が感じられました。

今回外来・入院で多くの患者を診察して感じたのは離島の患者の高齢化です。高齢化に伴い癌患者の数は増加することが考えられます。高齢化に対応できるようマンパワーの確保が離島医療の課題と思いました。

離島での実習で多くのことを経験させていただき多くのことを学ばせていただきました。また五島に行きたい、そう感じた1ヶ月でした。村瀬病院長を始め五島中央病院の先生方、看護師さん、スタッフの皆さん大変お世話になりました。



福江港行きジェットフォイル「ペがさす」



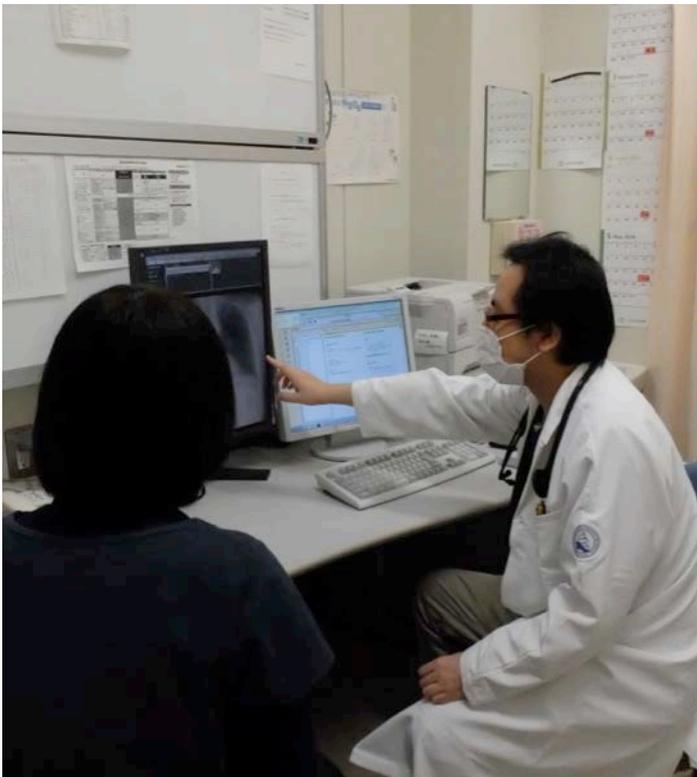
五島中央病院外観



村瀬病院長と



医局の山上さん、大変お世話になりました



外来診察風景



病棟診察風景



地域連携カンファ



外来処置室、ここで外来化学療法を行う
体調の悪い外来患者もいるので看護師さんなるべくお互い接しないように分けてくれています





上 4 枚、抗がん剤作成中 in 外来



あら鍋



牡蠣焼き、五島は食べ物が最高に美味しかった！



報告会にて